

「柁城小学校の加治木と熊本史跡めぐり比較研究への取組」

1 学校名

始良市立柁城小学校

2 学年・人数

第6学年 70人

3 日時・場所

- (1) 加治木町史跡めぐり（ウォークラリー）の日時・場所
令和元年5月16日（木）9：30～12：15・精矛神社（他15箇所程）
- (2) 熊本市グループ探検（修学旅行）の日時・場所
令和元年11月12日（火）10：20～15：30・熊本城（他10箇所程）

4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

(1) 名称・時代

- 精矛神社（くわしほこじんじゃ）・明治時代
- 南浦文之墓（なんぼぶんしのはか）・慶長時代
- ※ その他：加治木町・熊本市の各史跡・各偉人・各名物等

(2) 特徴

① 加治木町史跡めぐり（ウォークラリー）

ア 精矛神社：1869年に現在の鹿児島県立加治木高等学校、柁城小学校の敷地（祭神でもある島津義弘が亡くなるまで過ごしていた加治木屋形跡）に造営され、神号の精矛厳健雄命から「精矛神社」と命名された。大正7年（1918年）現在地に造営遷座され、本年度、没後400年を迎えた。

イ 南浦文之：慶長7年（1602年）、島津家久が創建した大竜寺の開山となり、翌8年（1603年）、島津氏の囑により使として徳川家康に謁し、家康の薦めで建長寺に上堂乗弘の式を行い、後水尾天皇に召され宮中にて四書の新註の講を行うなど、その学識の深さで知られる。島津義久・家久らの深い帰依もあり、薩摩藩の明や琉球との外交文書を司っていた。桂庵玄樹に始まる薩南学派とよばれる朱子学を継ぐ。墓所は鹿児島県始良市の太平山安国寺（墓は国の史跡に指定）。薩摩藩の剣術家であった東郷重位の剣術へ「示現流」との流派名を与えている。

② 熊本市グループ探検

熊本城：安土桃山時代から江戸時代の日本の城。別名「銀杏城」。加藤清正が中世城郭を取り込み改築した平山城で、加藤氏改易後は幕末まで熊本藩細川家の居城だった。明治時代には西南戦争の戦場となった。西南戦争の直前に大小天守や御殿など本丸の建築群が焼失したが宇土櫓を始めとする櫓・城門・堀が現存し、13棟（櫓11棟、門1棟、堀1棟）が国の重要文化財に指定されている。また、城跡は「熊本城跡」として国の特別史跡に指定されている。2016年4月の熊本地震で被災し大きな被害を受けたが大天守の外観の修復が終わり、現在、壮麗な姿を間近で眺めることができるようになった。

5 保存会や地域との連携の具体

「加治木町史跡めぐり（ウォークラリー）」では、柁城コミュニティ協議会の方々や柁城の子見守り隊の皆様が、各箇所において立哨指導や史跡説明をしてくださる。また「柁城ふるさと学習」では、加治木郷土館の方々に、加治木町の史跡等について、講話をしていただいている。

熊本市グループ探検の際は、市電も利用してグループで活動するので、熊本市の史跡案内ボランティアの方々に、各史跡のところにおいて、説明や案内を依頼している。

6 活用の取組の工夫した点

加治木町と熊本市の比較がしやすいように、各グループでテーマも決めて調べまとめることで分かりやすい研究になった。例えば、建築物「熊本城と加治木屋形跡」、人物「島津義久公と加藤清正公」、食べ物「加治木饅頭と辛子れんこん」という表現で発表し、分かりやすかった。

7 取組の様子



【島津義弘公への参拝】

【グループで散策】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- 加治木の歴史を詳しく知ることができた。自分たちの町には、昔の偉人に関する文化財等がたくさんあってすごいと思った。加治木の歴史をもっと調べてみたいと思った。
- 修学旅行で調べた熊本城や、加藤清正公、熊本の食べ物と、加治木の史跡や島津義弘公、加治木饅頭等を比べながらまとめたり、発表したりすることはとても楽しかった。
- 柁城小そのものがお城跡だったり、鹿児島県庁跡であったり、発見することがいっぱいあった。これからもいろいろ調べていきたい。

【教職員】

- 精矛神社や南浦文之墓等の史跡で、子供たちが目を輝かせて見学する姿が見られた。直接文化財等に親しむことが、自分たちの町への興味・関心や誇りを高めることにつながったように感じた。
- 自分たちの地域のことでも知らないことが多く、初めて行ったり知ったりしたようだ。グループ内の友達と協力したり、地域の方とふれあったりもでき、有意義な時間となった。

【地域の方】

- 柁城小の校区は、歴史と伝統があるので、子供たちが自分たちで調べたことに対してより一層興味・関心をもち、後世に語り継いでほしい。